

歯周形成外科(perio-plastic surgery)の適応と考え方

- より良い口腔内環境の構築とその永続性への予測 -

東京都開業 歯周病専門医（指導医） 小延 裕之（このぶ ひろゆき）

はじめまして、私は東京の日本橋室町という街で開業しております。数多ある歯科の診療所の中ではごく少数派の歯周病専門医を標榜しています。あまりなじみのない業種だと思いますので、僭越ながら日々の仕事的一端をご紹介させていただきたいと思います。

歯周病を治療するという事はポケットが深くなり、歯を失ってしまうことを防ぐのが主体であるように考えられていると思いますが、現在ではポケットに対する仕事よりも安定した口腔内の環境を維持しやすい状況に整えてあげるのが仕事の中心へと移ろいつつあります。付着の喪失を伴う歯周炎の治療は現在では、その予後の研究と、治療としてとりうるオプションが体系だって整理されてきつつありますし、若年者の侵襲性歯周炎などは別にして、慢性歯周炎については早期発見と予防が中心になりつつあります。

管理しやすい歯周組織や口腔内というのはつまるところ、衛生的でメンテナンスしやすい状態を指すわけです。一般的に SPT（メンテナンス）は特別にハイリスクであると診断された患者でなければ年に1～4回程度の頻度で、1回あたり平均30分から1時間程度のアポイントとなります。そして良く訓練された歯科医師や衛生士が普通に行えるような内容です。具体的には超音波スケーラーとキュレット、プローブ、プロフィーのための用具などのみで、特別なものは何も必要ありません。そのような SPT を患者との信頼関係と相互理解を築き上げた上で永年にわたりつづけていくことです。

そのために、私たちは、歯周組織の状況を診断し、適切であり、良好な予後が期待できるような歯周組織やインプラント周囲組織を作っていくわけです。ですから、歯周病専門医の仕事は現在では良好な維持しやすい歯周組織作りが主となりつつあるのは世界的な潮流なのです。

そのような状況の中で、歯周組織においても審美性が重視されるようになり、審美と健康はだんだん近づいてきているようです。つまり、審美的に再建された歯周組織は数十年のスパンで見れば当然メンテナンスが容易ですから、歯周形成外科の需要も高まりつつあると言えます。

加えて近年は、インプラント抜きで歯科の臨床を語ることはできないと思います。ここでも、我々は soft tissue および hard tissue の両方を適切にマネジメントすることにより、良好な予後の期待できるインプラント治療を推し進めております。

本日は、限られた時間の範囲内で、以上のようなコンセプトについて、特に tissue management を中心としてお話しさせていただきたいと思います。

平成 20 年 12 月吉日